

「イングリッシュ」と「英語」

英語を学んだきっかけは、英語しか話せない保護者がいらして、送り迎えでの毎日のコミュニケーションのためでした。二人の可愛いオーストラリアからのお嬢様は、日本語がわからず、一人はもうすでに3歳であっという間になじみましたが、もう一人はまだ2歳になったばかりで倉庫がお気に入りのケイティ。倉庫住まいが2週間ぐらい続きました。待ちました。根比べでした。無理矢理は嫌だったので、この時に「待つ」大切さをケイティから教わったように思います。と、同時に「言語の大切さ」を痛感しました。

日に日に保護者のお顔が引き攣っていきます。心配でどうしていいかわからず困っていました。私も、どう伝えたらいいかわからず悩みました。「当たって砕けろ」仕事上がりに英語のクラスに週2回通い、伝える英語を学びました。目の前に実践しなくてはならない英語を必要としていたので、それについての学びです。教科書は最初の10分。あとはこちらからの質問でした。心から悩み、必要としていたので、あっという間に伝わるようになりました。保護者も安心の笑顔。そして、ケイティも倉庫から出てきて皆と一緒に過ごせるようになりました。もちろん、私の英語よりも数十倍も早く日本語をお嬢様二人ともあっという間に習得し、話していました。

「海外では誰でも英語は話すから、そうではなくきれいな英語を」という言葉を聞きました。本当にそうでしょうか？英語はツールであって、学ぶ目的ではなく、文法があってフォーマルな文書に使用するような英語をいつも話せていれば最高でしょうか？それで相手と繋がれますかね？相手と気持ちが伝わらなければ、英語も「無用の長物」とも言えるように思います。

「ロボットがフォーマルな文書をこれからは作成しますから。」

文書作成のフォーマルイングリッシュと、コミュニケーションする英語は別だと思えます。後者が身につくような英語を、子ども園では、お子様方が大変興味のある食育をトピックに展開しております。食に関しては、ご家庭でも英語で会話をしながら食事をするのも良いかと思えます。英語も「無用の長物」ではなく、使える英語となっていくよう未来を見据えてまいります。

因みに、現在5年生の子ども園卒園生は、年長の秋にワシントン出張のお母様がトロントのお友達のところにお子様だけで預けて、英語がわからず困っている様子だったが、食事の時だけはお話をし笑顔になり、英語のお歌まで歌っていたということをお聞きして、飛び上がって喜んだことがございます。

園内コミュニケーションのウェブ上では一部英語でのチャットを始めました。それはフォーマルであってはならないと思っております。フォーマルはロボットに。コミュニケーションして、人が繋がる部分は「会話」で。もちろんきれいな会話ですが。

でも、尊敬語と謙譲語などが無い、また、女らしくない、男らしくない言葉が無い英語は本当に気を使わず「上下関係や、ジェンダーギャップ解消に最高です！」と感じてしまうのは私だけでしょうか？

とはいえ、私が住んでいるのは日本。そして日本で育っている子どもたちへの深い愛情を持って、きれいな日本語で関わってまいりたいと思えます。そして、英語は楽しく、自分の興味がアウトプットできるようなそんな食育と英語の融合した活動になっていけば良いと強く思っております。

こんな話をすると、80歳を超えた母からは「西洋かぶれ」といまだに叱られる今日この頃です。

笑顔で前向きに年の瀬を迎えたいですね。